

アマダイ通信NO. 119

(Tile fish network letter) 2017年 紫陽花鮮やか

知人・友人各位

明治の初め3千万人ほどだった日本の人口は、太平洋戦争敗戦時が7千万。最近1億3千万近くでピークの後、減少一途。少子高齢化の危機が叫ばれて久しい。他方、世界の人口は増加し続け、化石資源は上下しながらも、昂騰する。広い土地に少ない人口で豊かな生活をエンジョイするオーストラリアやニュージーランドを旅すると、日本の人口の適正レベルがいくらかは別にして、少子高齢化も悪くないと思う。足りない労働力は先ず老人と女性の労働参加で補い、一人当たりの生産力が増え、個々人が豊かに暮らせればいい。より大きな成長を目指す者は、より大きな市場と労働力を求め、世界に打って出ればいい。

◎笑えない落語会

6月6日、国立演芸場で年に1回、今回で5回目の三遊亭昇吉君（國枝明弘、2003年入寮）の落語会。一人2千5百円の木戸銭で3百人ほどの客。助演者、スタッフのギャラなど考えると採算は厳しそうだが、よく頑張る。●党も同窓中心に30人ほど参加、盛り上げる。顧問先の米屋の菊太屋が楽屋に美味しいお握りの差し入れをしてくれる。

近くの中華料理屋で、昇吉君も駆け付け二次会。昨年ボストンのMITでの、ゲノム編集世界大会の東大チームメンバーだった竹内碧君（2016年入寮）が、アルゼンチンからMITへの留学生で、この夏休み富士通のインターンをしている、日本語堪能なイグナシオ君を同伴。昇吉君に黄色の素敵な着物をプレゼントした勝部日出男君（S43年入寮）も、メナード化粧品役員の奥さんとメナードレディ同伴で参加。華やかに盛りあがる。

このところ自分の声も含めて割れて聞こえ、話が聞き取りにくい。2年ほど前、右耳が、高速のエレベーターに乗るとよくある、ツーンと耳が詰まった感じが続き、近所の耳鼻科で検査して貰った。問題ないと言われそのままにしていたが、今回は三楽病院の耳鼻科で聴力検査。聴神経が弱っているが、補聴器をかけるほどではないと、とりあえず漢方薬を貰う。飲むと眠くなり、仕事にならない。薬は止める。打つ手なし。

昇吉君の落語会でも、周りは笑っているのに笑えない。テレビの歌番組を聴いても歌い手の声が割れて聴こえる。ベートーベンも難聴に苦しみながら名曲を次々作ったというが、音痴で調子外れの上に、割れて聴こえるのでは最悪。アポの日時を聞き間違える事態も。大手デベロッパーの事業部長秘書から電話。「●さん、今どちらにいらっしゃいますか？ 今日4時のお約束ですが？」、素敵な声で訊ねられる。絶句。●の手帳には翌日の4時にアポのマーク。あらためて面会して頂こうと思うが、優しい同学の後輩とは言え、電話を掛けそびれる。相手の方には申し訳ないが、話していても聞き返すことが多くなる。

老いるとはこういうことかと思うが、加齢のためとは言え、笑えない現実が進む。カートに乗らず歩くゴルフやスキー、水泳、サイクリング、トラピックスなどの安い、ハードな海外旅行に行く体力と好奇心。若い！と言われるが、古来稀なる年齢ともなると、体のパーツパーツに耐用期限が来る。だましまし使って、個体としての終わりを迎える。多少は他人の役に立ち、「働いて、愉快地に」、与えられた時間を全うしたい。

◎藁をもつかむ気持ち

●さん、いつも●通信ありがとうございます。今日は藁をも掴む気持ちで●さんにメールしました。検便の潜血反応のため一昨日虎の門病院で大腸内視鏡検査を受けたところ肛門から10cmくらいのところのS字結腸に手術を要するほどのものがあると伝えられて大変なショックを受けています。5月9日に今回の検査の説明とさらに詳細な内視鏡検査を行うことになっています。自覚症状はないのにショックです。手術となれば良い病院、良い先生にお願いできればと切に思いますが、私は全くわかりませんので何かアドバイスでもいただけないでしょうか？●さんのように元気で長生きしたい。・・・三鷹寮同期のSさん。

※Sさん、●です。大分心配、悲観しているようですが、同じがんでも大腸がんでラッキーでした。しかも肛門まで10センチもあるというのですから二重にラッキーです。小生も盲腸を含め上行結腸を30センチ切りましたが、大腸は長いので、切って、つないでしまえば、胃がんと違って食事、もちろんアルコールも困るということはありません。現在では肛門ぎりぎりまで人工肛門をつけないで済むようですが、10センチも残っていれば全く問題ないのではないのでしょうか？二重にラッキーです！

おまけに、文Ⅰから理Ⅲまで、つまり弁護士から医師まで、全てのソリューションが揃った総合大学の学生寮三鷹寮のネットワークのメンバーだということで、三重にラッキーです。斯界の権威を揃えた国家公務員共済虎ノ門病院であれば、何も心配することはないと思いますが、心配なら寮同期の澤田君（元群馬県立がんセンター院長）や山川君（羽村の山川胃腸科医院長）に相談されては如何でしょうか？小生も色々相談させて頂きました。

セカンドオピニオンをとということであれば、小生の主治医、同学の後輩ですが、御茶ノ水の東京都教職員共済組合三楽病院の阿川院長先生をご紹介します。小生も全く自覚症状がなく、たまたま受けた保健所の検査で便潜血検査陽性です！と言われて闘病が始まりましたが、術後14、5年になります。郭清したリンパ腺9か所中3か所のがんが転移、先生は密かに余命半年と思われたようですが、幸いリンパ腺に転移したがんは全部取りきれたのでしょうか？現在まで元気に仕事に励み、年齢70にして、隔週の寮の仲間とのカートに乗らず歩くゴルフや孫娘とのスキー、水泳、サイクリングなどのスポーツも楽しんでおります。ゴッドハンドに感謝です。

去年、知り合いの方から相談を受け、この方は便秘や腹痛なども酷かったようですが、大腸がんを阿川先生に施術して頂き、その後肺と肝臓への転移が発見され、大分暗い顔をされていましたが、抗がん剤の投与を受け治癒、先週電話したら、先生からお酒の許しも出たとのことで、伊豆の温泉で共通の友人と祝杯を上げていました。

今やがんも治らない病気ではありません。病は気からと言います。病気を気にしすぎて悲観しすぎると免疫力が衰えます。物事には積極面と消極面、表裏があります。消極面にも配慮しつつ、積極面を重視、免疫力が向上するように、がんにも全ての時間をとられるのではなく、これまでの生活を大事にして、前向きに生きたいものです。

※●さん、連休中にもかかわらず、心温まるメールありがとうございます。とても心強いです。山川君は寮の同室だったので話し易いので相談してみたいと思います。メアドご存じなら教えて下さい。三楽病院の阿川院長先生が神の手ならやっていただきたいとも思います。その際はよろしくお願いします。連休明けの5月9日に先日の検査の説明と詳細な検査があるのでその結果をまたご報告しますね。妻が昨年死亡して今は独居老人で両国に住んでいます。

一人で家事から何までやって大変ですが頑張ります。連休明けまでは病院が動かないので、明日から極東ロシアに行つて気晴らしをします。ユジノサハリンスク、ウラジオストク、ハバロフスク。帰国して直ぐ検査です。持つべきものは友、本当にありがたいメールでした。どうかよろしくお祈りします。 S

※Sさん、山川君の連絡先をお知らせいたします。電話は042-554-3111(山川医院)です。宜しくお願いいたします。

※●さん、クイックレスポンスありがとうございます。スカイライナーで成田に向かっているとところです。帰国後連絡とってみます。ありがとうございました。今日は素晴らしい天気です。 S (続く)

◎恩師、彰三郎先生逝く

秋田から封書。高橋知道と、差出人名。能代高校の国語の恩師、高橋彰三郎先生が亡くなったんだと、ピンと来る。●通信を送ると、毎回葉書に達筆な筆書きで感想を頂いていたが、5月に送った最新号には御便りがなかった。2年ほど肺炎を患っていたが、この四月に84歳で亡くなったと、息子さんから丁寧なお知らせ。

国語の授業、好奇心の塊の●30歳になるかならないかの若く、情熱的な彰三郎先生に、ここはこういう意味ではないか？こうも解釈出来るのではないかと活発に質問、自説を展開。奇問、珍説に先生もタジタジ。それでも真面目に応えてくれる。それが面白くて●は更に珍問、奇説を展開、を繰り返した。

教科書をなぞるだけの授業では物足りない。高一の頭から大学受験の分厚い参考書を買って読み、自学自習。予習済みの数学の授業は聴かず、当時難解と言われた岩切晴二著、倍風館の「数I(II)精義」に没頭した。英語は分厚い赤尾旺文社社長の「英語の総合的研究」、国語は同じく旺文社の分厚い「古文の総合的研究」に解らないながらも挑戦、解説を読んで理解することに努めた。大学受験問題から抜粋した演習問題は高校入学したての●には難しく、半分も解けなかったが、読んで理解することに努め、解らないところは先生に質問、理解した。二度目は最初に×のついた問題に挑戦、三度目はふたつ×のついた問題にだけ挑戦、最初に半年かかって1回やり終えたのが、二度目は三ヶ月で、三度目は一ヶ月半で出来るようになり、一年生の内に受験勉強が終わっていたような気がする。

2年生、3年生は青春した。中学生の時よく読んだ石坂洋二郎と井上靖の小説の様な世界に遊んだ。文学好きで古今東西の文学書も涉猟したが、古文については新井白石の「折り焚く柴の記」などの近世の擬古文から始まり、大鏡や方丈記、徒然草、枕草子など、定番の古文を注釈付で読んだ。解らないところは彰三郎先生を頼った。英語もラフカディオ・ハーンなどの短編小説を対訳付きでよく読んだ。

学生運動に没頭するようになってから、思想書、哲学書、政治経済学書を紐解くことはあっても、文学書を手にするには余りない。不粋な男になってしまった。これから文学書を手にする事があっても、先生は先に逝ってしまい、奇問を發することも、珍説をぶつけることも出来ない。冥土というものがあるとすれば、そこで再び相見えることを楽しみに、多少は他人の役に立ちながら、残り少なくなった余生を有意義に生きたい。合掌。

◎命拾い

5月の連休、2日は小川カントリーでゴルフ、車で越後湯沢に直行。3日は小2の孫娘とGALA湯沢で春スキーを楽しむ。上達意欲が出てきたか？嫌がっていたスキースクールに入るといふ。コブだらけの山頂を含め、一人で心おきなく滑る。ジュニアの初級コースに入った孫娘は、良く滑れると先生に誉められたと上機嫌だが、疲れたようで上がりたいという。無理して滑らせ怪我でもさせたら大変と早目に切り上げマンションのプールへ。身重の母親が、女の子二人を連れて来ると、コミュニケーション能力抜群の孫娘は、爺には目もくれず一緒に遊ぶ。爺は解放され、1時間以上プールに浸かり、黙々と泳ぐ。

4日は奥只見ダムの上の奥只見丸山スキー場を目指し、新緑の眩しい 関越道を車でひた走る。途中で眠気を覚え、石打のパーキングでコーヒーブレーク。眠気すっきり。小出で降り、雪融けが終わったばかり、まだ水の張られていない田んぼを左右に、明るくのどかな旅を終え、70年前通った産道もかくなるやの、暗く狭く凸凹の湿った道を走る。再び睡魔に襲われる。20キロ程の狭いトンネル道には自販機も、短い仮眠をとる待避所もない。我慢して走り続け、もう直ぐ明るく広い人間界に出られると思った時、ガリガリ！という音で目が覚める。もやのようなものが立ち込め、事故る。サイドのエアバックも破裂。助手席の孫娘は、大きな音に驚いたようだが大丈夫。前後にも、反対車線にも車はなく、命拾い。車もびっくりしたのか？走りが弱くなり止まりそう。一度止めて助手席側を見つめるが、暗くて良く見えない。エンジンを切って再始動すると、力強く走り始める。

車をスキー場の駐車場に入れ保険会社に連絡。車はレッカー車で東京まで運ぶことになるが、レッカー車の到着まで間があり、孫娘は滑りたいという。リフトを3本乗り継ぎ、奥只見丸山山頂へ。視界360度の山頂ヒュッテでパスタとビール。久し振りの丸山でコースを間違えこぶだらけの絶壁の上に立つ。孫娘がボーゲンで降りられる斜度と凸凹ではない。コースから外れ林間の斜面を斜めに横切り、初級者用迂回コースに合流するしかない。シーズン末で雪は水分と自重で固まり、新雪の様にスキーは深く沈まないとは言え、林間を斜めに滑る技術は孫娘にはない。やむを得ない、山側の孫娘と肩を組むようにして、転ぶ孫娘の態勢を立て直しては進む。最後迂回コースと接続する壁は高く、孫娘にはスキーで降りられそうにない。尻スキーで滑るわ！笑ってスキーを脱ぎ、お尻で滑って行く。孫娘のスキーを抱え、追う。学齢前の肺結核の自然治癒、学生時代、デモ隊の最前列で機動隊とガチンコ、押倒され、踏みつけられて意識喪失、余命半年の大腸がんの完治に続き、四度目の命拾いという意外な形で、爺と孫娘の楽しいスキーシーズンは終わる。

の二度目のエジプト紀行（16．12．23～30）Ⅲ

④可耕地と砂漠、水の恵み

4日目の朝まだき、前代未聞の2時のモーニングコール。てんこ盛り、強行スケジュールのトラピクス。沢山見聞出来る。翼つけた好奇心には、体力のある内はてんこ盛りも好都合。3時45分ホテル発、5時45分カイロ空港発、7時10分着のエジプト航空でアスワンに。冬のリゾート地、何よりもアスワン・ハイダムのある町。無限に続く砂漠の中にダムから灌漑水路が延び、水が緑を呼ぶ、緑と砂漠の調和した町。アガサ・クリスティが滞在、「ナイルに死す」を執筆、その舞台となったことでも知られる。砂漠に浮かぶ空港から、アスワンハイダムのダム湖、かつての大統領の名を冠したナセル湖を渡る。湖はエジプトから隣国スーダンにまで広がる。目を下流に移すと60mの落差の下、見事な緑野が広がる。

水の恵み、水の有無が、可耕地と不毛の砂漠、可住地と無人の荒野をくっきりと画す。古代からエジプトの民への恵みであると同時に、彼らを悩ませてもきたナイル川の氾濫を防ぎ、可耕地と可住地を広げて農業を振興、国内に電気を安定供給、産業も振興、国民の生活を豊かにする！1952年の革命でエジプトを共和制に導いたナセル大頭領の下、1970年に工事が完成、72年に発電を開始した。電気をカイロなど需要地に送る巨大な鉄塔が砂漠の中を延々とうねり、バスを降りて足元を見れば、砂の上に幾筋もの線条痕。ガイドのハリルによるとフンコロガシの奮闘の跡だという。ケニア以来のフンコロガシとの出遭い。餌になる動物の糞を丸め、逆立ちして後ろ足で押して運ぶ甲虫の仲間、太陽なる糞球を転がし、金色を帯びて輝く緑黄色のフンコロガシ（スカラベ）は、太陽の運行を司る太陽神ケプリと同一視され、崇められる。神殿の彫刻や絵によく登場する。

幅 3600m、高さ 111m の巨大ダム completion で、多くの貴重な遺跡が水没の運命を余儀なくされる。末期王朝からプトレマイオス朝にかけ、死者の内臓を守る女神イシス神に捧げられたフィラエ島のイシス神殿は、島もろとも水没を余儀なくされる。ユネスコにより、地勢の似たアギルキア島に神殿全体が移築され、現在はかつてのアギルキア島がフィラエ島と呼ばれる。そのイシス神殿を、長軀、黒光りする肌の、陽気なヌビア人の操る小舟で訪れ見学。塔門のレリーフが美しい。船着き場には素朴な手作りの土産物売店、ブーゲンビリアの咲く店の周りを子猫がのんびり徘徊、日本人はここでも猫好きだ。小舟で湖岸の船着き場に戻り、バスでアスワンの南 280 キロ、エジプト最南端の見所アブ・シンベル、200 年ほど前、半分以上砂に埋もれた状態で発見されたラムセス 2 世の巨大な岩崖神殿へ向かう。

3 時間の砂漠の旅、殆ど何もない砂漠の中に、黒い帯が遙かにうねりバスは進む。アスワンの電力を利用するのか、近くの地下にガスか油が埋蔵されているのか？突然化学工場が現れたり、軍の施設があったり、バス停？が現れたり。そんな所にも茶屋がある。ヨルダンだったか、今は戦場と化したシリアだったか旅した時、砂漠の道路脇の茶屋でお昼を食べた時があった。一種のドライブイン。道があり、車が走る。トラックやツアーバスも走る。砂と道路以外に何もない。何もない砂漠の道でも、トイレは岩陰やブッシュ、窪地を見つけて身を隠せば、糞転がしが処理してくれるか、干からびて砂嵐で遠くに吹き飛ばされるが、水やおにぎりが欲しくなった時、どこかの国の様に自販機やコンビニが至る所に氾濫している訳ではない。どこの国でも目敏い者がいて商機を掴む。黒人が一人歩く。見渡す限りの砂漠で、どこから来て、何処へゆくのか？一人歩く。全く人間の匂いのしない処で突然、らしい景色が現れ、一瞬の内に遠ざかる。遙か遠くにキラキラ光る水面のようなもの。走っても、走ってもたどり着けない。逃げ水のように。これが蜃気楼、久し振りにみる。茶屋がもう一軒、そばに高い鉄塔、携帯電話の基地局だ。ソーラーパネルを屋根に載せた小さな建物、オレンジの四駆が 1 台。道の反対側、左側にも幻の湖が現れ、人を誘う。渴いた余多の旅人を歓喜させ、落胆させ、命を失わせただろう蜃気楼。

⑤過去・現在・未来

テントの家に続き、ナツメヤシ畑が現れ、その緑が濃くなり、集落が現れる。幻ではない本物の水が湧き出るオアシス。人類が最初に発生したというアフリカの大地溝帯に続くこの地では、日本人の祖先が日本列島に住みつく遙か以前から、食べて、寝て、働いて、

セックスして、子供をつくって、子孫を残す。人間の営為が連めんと営まれて来た。しかも現代の我々が、高速で走るバスの上から見渡しても何も見つけることが出来ない砂の海を、小舟すらなくさ迷いながら、ポツン、ポツンと点在する、肉眼では見る事の出来ない緑の島の存在を夢見、みつけては定住。沙漠で息絶え、骸をさらす者も多かったろう。幸運にも生き延び、増えた子孫は又、新天地を夢見、押し出されるようにして、当てのない旅に出た。そしていつか、日本列島にも、肌の色さえ変わってしまうほどの長々年月を経て、辿り着く。膨張する灼熱の太陽に地球が吸収され、その遙か手前で人間居住環境としての地球が失われる前に、人類は広大な宇宙の彼方に、砂漠に浮かぶオアシスの如き、水と空気と緑の新しい人間居住環境を、発見出来る日が来るのだろうか？

●が妄想を逞しくする間もバスは進む。見渡す限りの砂の世界に突然、5、6階建てくらいの大規模な集合住宅群が現れ、コンクリートプラントまである。砂漠に大きな溝を掘り、アスワンハイダムとつなげて水を引き、砂漠を緑の耕地に変える、エジプトの英雄ナセルの構想が引き継がれ、今に至るまで、営々と巨大用水路が造られ、砂漠を緑の沃野に変えている。大土木工事はエジプトの民にとってはお手の物。今でこそちっちゃな日本列島をいじくり回し、ダムや橋、港や鉄道、空港を至る所につくって「土建国家」と言われる国に住むが、農閑期の農民を動員、ピラミッドをつくったこの国の民の方がずっと先輩だ。農閑期の農民のために雇用を創り、社会資本を整備する知恵。元祖社会政策。3千年、4千年後の末裔のための飯の種、観光資源を創るという、結果としての思い遣り。ヨーロッパの城郭、教会、中国の万里の長城に同じ。正に深謀遠慮とはこのこと。結果、借金の重さで国が減びるかはファラオの知るところではない。何回目だろうか？うたた寝から覚めると、ココヤシの繁茂する緑の大地と水色に光る用水路が現れ、橋を渡ると目の前に湖が広がる。蜃気楼でも、オアシスでもない、ナセル湖だ。アスワンから3百キロ近く、対岸は見えるが遠い。まだまだ上流に向かって湖面は広がる。まるで海のように。レストランの前で下車、冷たい地ビールで乾杯。又も猫が足許で戯れる。

3千年以上前の新王国時代、ラムセス2世によって建てられた岩山の崖を穿つ岩窟神殿、アブ・シンベルにバスで向かう。石ころのゴロゴロ転がる岩山の向こう、群青の湖面が小波を立てて果てしなく広がり、上方、淡青のキャンパスに羊雲が白く重なる。バスを降り岩山の背後に回ると、湖に面して大神殿。1813年に半分以上砂に埋もれた状態で発見され、永い眠りから覚めた四体の巨神が岩崖に鎮座。アスワン・ハイ・ダムの建設で水没の危機にさらされ、ユネスコの協力で移転された。大神殿の正面の20mもの高さの巨大なラムセス2世の座像の足元から中に入ると、8体のラムセス2世の立像のある列柱室。太陽が昇る東向に神殿が造られ、奥の至聖室の神像には年に2回だけ光が差し込む、神秘的設計になっている。50mほど北には小神殿。王の寵愛の証としてのラムセス2世と王妃ネフェリタス像が正面に並び、内部には二人の美しいレリーフが残されている。神殿は四角くブロックに切って運び、組み立て、コンクリートで覆い、石ころを積み岩山とした。美しい神々の像にも直線が刻まれる。巨大な神像を創った偉大なラムセス2世でさえ、数千年後、世界の果てから来た、肌色の違う人間によって、忘却と水没の危機から救われ、末裔のために、観光収入という形で貢献しようとは夢にも思わなかつただろう。それとも観光で後世のために貢献することは、正にラムセス2世の思うところなのか？道具と火を操り、更に農耕を覚えて以来、人類は生存のために単純に他の動物と競争する必要がなくなった筈。

なのに、同じゴミ捨て場で、白鷺と頭の天辺から爪先まで黒づくめのご婦人が、競争でゴミを漁る。神の教えに忠実に肌を黒く隠し、朝から晩まで、「神のご加護を！」と唱えながら。「辺境」から来た無神論者は、果てしなく広がる砂の海を白川夜船する（続く）。

◎伊藤若冲について

・ ・ 東大三鷹クラブ第133回定例懇談会のご案内【昼食会合】

三鷹クラブの第133回定例会は、7月6日（木）、初めて昼食時からの会合として開催、美術史家の辻惟雄さん（昭和26年入寮）に、伊藤若冲についてお話をしていただきます。

辻さんは、平成15年9月の第50回定例会で、「日本の美一飾りの世界」と題して講演して下さいました。ニューヨーク、ロンドンで、辻さん企画の同名称の展覧会を開催し、絶賛を博したばかりのタイミングでした。美術、工芸はもとより、身边を飾る品々、さては祭りの行事に関するものまで、広く日本の伝統に育まれた美について、映像を用いて、私達にもわかり易く説明していただきました。その時から10余年、辻さんは、斯界の第一人者として活躍を続けておられ、昨年秋には、文化功労者に選定される栄に浴しました。

伊藤若冲の生誕300年を機に、昨年4月から5月にかけて、東京国立博物館で、若冲展が開催され、30日余の会期中に、45万人の入場者が記録される大盛況でした。会期中の日曜日、NHKの番組に辻さんが出演され、10年前と変らぬ姿で、歯切れ良く若冲を解説しておられました。今年に入って、日本経済新聞の私の履歴書欄に、若冲をはじめ、江戸期の日本美術のコレクターで、プライス・コレクションのオーナー、ジョー・プライス氏が登場、若冲絵画に対する深い敬意と愛着を述べておられました。その中でも、辻さんの名前を挙げられ、若冲を通じて、お2人の間に親密な交流のあることが記されていました。

私も、三鷹クラブで辻さんが講演される少し前、皇室所有の美術品の展覧会で、たまたま、若冲の群鶏図を目にし、その素晴らしさに大きな感銘を受けました。昨年の若冲展には、長い列の後に連なって入場、群鶏図を含む動植採絵を中心に、若冲作品を堪能出来ました。それと同時に、辻さんが早くから若冲についての研究を重ね、多くの著書も刊行し、最近の若冲ブームも、辻さんの業績に負う所が極めて大きいことも知りました。

このような経緯から、私としても、是非早い機会に、辻さんから若冲のお話をお聞きしたいとひそかに考えておりました。今回思い切って辻さんのお宅に電話、快く講師をお引受け下さり、私の願いが現実のものとなりました。

会合の次第は、下記の通りですが、重ねてランチタイムの開会であることに御留意の上、美術に関心のある多くの方々が参加されることを望んでいます。（平賀 記）

日 時：平成29年7月6日（木） 12時30分～15時

場 所：学生会館本館301号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会 費：6000円（会場費、昼食代・飲み物代、通信費など込み）

定 員：50名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎新入生歓迎会、慰労会

4月15日（土）、風薫る週末の夕方、月島の図書館で経済誌を読み、プールでひと泳ぎ、

三鷹寮の新入生歓迎会に。三鷹寮近くのカップ寿司で、新入生歓迎会なのでいつもより多く寿司桶 10 個買い、同窓会から欠食？児童に差し入れ。駒場のサークルのコンパでの一気飲み死亡事故以来、相変わらず公式行事では禁酒。寮生諸君はアラブ人の様にソフトドリンクで盛り上がるが、●は盛り上がれず。誘って一緒に参加した 2003 年入寮、「笑点」司会の昇太の弟子、二つ目、東大出の唯一の落語家春風亭昇吉君と語り、吉祥寺の、今、若者に人気の「串カツ田中」へ。二度漬け禁止の串カツと安酒をご馳走。

5 月 6 日、連休の土曜日、新入生歓迎会の慰労会。夕方本郷のチャンコ料理屋浅瀬川で寮生とチャンコ鍋を囲む。交流とネットワークの場づくり。OB4 人含め 17 人でワイワイ、交流を深める。三鷹クラブのネットワークを広げ、いずれ世界と日本のために彼らに活躍して欲しい。天下、国家のために貢献してくれると嬉しい。●事務所で乾き物で二次会。

◎役員交替、交流会

5 月、6 月で留學生のチューター役の院生会も 1、2 年生で構成する MSC も体制が変わり、OB との交流会。6 月 17 日（土）7 時から歌舞伎町の『いけす無門』で豚しゃぶ鍋のコース料理、日本の味、日本の食文化を、留學生も含めて、若い皆さんと楽しむ。併せて、寮生諸君にはインバウンドに人気の世界の歓楽街、歌舞伎町の探索も楽しんで貰う。

ワンルームマンションと化したかつての自治寮、自治の学校、三鷹寮。全国、全世界から集まる若き俊秀達が、多少とも交流を深め、人間関係の処理法を学び、ネットワークを広げ、いずれ日本と世界のために活躍して欲しい。

参加者は、黒宮寛之（2012・文Ⅱ 教育学部・院・名古屋）、王澤辰（2016・USTEP・中国（大連）・ブリティッシュコロンビア大学）、青山絵里香（2016・文Ⅲ・愛知・一宮）、増子彩夏（2016・文Ⅲ・新潟・高志中等教育）、湯生晴子（2016・文Ⅲ・兵庫・神戸大学附属中等教育）、鄭翌（2016・理Ⅱ 医学部保健学科・中国（武漢））、韓 旭（2017・医学部研究生、医療情報学・中国（南通）・前橋工科大）、小笠原傑（2017・理Ⅰ・北海道・修道）、小田涼平（2017・理Ⅰ）、高橋俊広（2017・文Ⅱ・山梨・甲府南）、鶴大樹（2017・文Ⅰ）、登阪嘉仁（2017・理Ⅰ・京都・灘）、豊田遼（2017・理Ⅰ・奈良・奈良学園）、西下尚寛（2017・文Ⅱ・三重・津）、本田祐規（2017・文Ⅰ・京都・嵯峨野）、森合勲武（2017・理Ⅰ・愛知・名古屋大学附属）、李昌（2017・理Ⅰ）、脇山由基（2017・理Ⅱ・佐賀）、OB が櫻井達美（1953・理Ⅰ・工学部 航空学科・神奈川・横須賀）、辰紘（1965・文Ⅰ・教養学部教養学科国際関係論・大阪・三国丘）、干場革治（1966・文Ⅰ・秋田・能代）、勝部日出男（1968・文Ⅰ 法学部・鳥取・米子東）

◎働いて笑おう！・・終わりに

今回は生死の話が多くなった。若い時は幾つまで生きるか？考えもしなかったが、70 歳。「古来稀なり」と言われるが、日本では今や人生 80 年も稀なことではない。素晴らしいことだが、人生 80 年を前提にして社会のシステムが出来ていない。年寄り「長生きリスク」の前で立ちすくむ。それを見て、若い者も身構える。それぞれの世代がいつまで生きるか、元気に働けるかは統計的に計算出来る筈。年寄りも元気な内は働き、稼ぎの大きい老人は同世代のために税金も沢山負担する。総じて、能力に応じて働き、働きに応じて負担、全ての国民が安心して、健康で文化的生活を楽しめる社会を実現出来ないか？再見！